

## 明るい未来を切り拓いていく推進役として



総長・学長

酒井 正三郎

Shozaburo SAKAI

ご卒業おめでとうございます。中央大学の学位記を取得される皆さんの在学中の研鑽と健闘を讃えるとともに、中央大学の卒業・修了を心よりお祝い申し上げます。また学位記を授与される皆様のご両親、ご家族、そして関わり深い方々にも、教職員一同とともにお祝いを申し上げます。

中央大学は昨年創立130周年を迎えました。これを機に本学は次の140周年目を展望しつつ、「中央大学中長期事業計画 Chuo Vision 2025」を策定し、学部増設、キャンパス整備計画、グローバル化の推進、総合学園構想、スポーツ振興などを柱とする諸課題に取り組んでいくことを発表しました。

本学は「實地應用ノ素ヲ養フ」を建学の精神に掲げ創設されました。本学の創設者は、経験を尊び實際を重んずる学風を育て、個人の自由と自助の確立、実証精神と在野精神の涵養、自由闊達な進取の精神などを強く訴えました。この中央大学の誇るべき伝統である実学教育は、今日に至るまで脈々と受け継がれ、研究・教育活動の中に生かされています。この実学教育は、単に実用に即した知識の修得をめざすものではありません。それは学問的探究を通して創造的批判精神を養い、社会での課題に応える知性を育成することに核心があります。この思いは、現在「行動する知性。—Knowledge into Action—」というユニバーシティ・メッセージにも込められています。

ところで、日本経団連が大学新卒者に求める能力について毎年行っている調査があります。現在、入手可能な最新版である2015年度版までの10年間連続して第1位を占めてきているのは「コミュニケーション能力」です。また、ある海外研究者(英オックスフォード大学マイケル・オズボーン准教授)の調査によれば、今後20～30年の間に現在ある仕事の約半分(47%)は自動化されていくということです。仕事自体が自動化・機械化されていけば、残るものの多くはコミュニケーション能力が必要な分野になるということになります。修学期間中も学生間で、あるいは先生方とも多様なコミュニケーションを繰り返しながら、このたびの卒業・修了を迎えられたものと思われます。つまり、学業を全うされたみなさんは、いずれもコミュニケーション能力に優れた学生であったということになります。

これからみなさんは、今まで出くわしたことがない問題に対して取り組んでいかなければならない時代を生きていくこととなります。少子高齢化、地方創生、環境問題、貧困など、国内外の問題は複雑化して生起しています。未だ誰もが成し得ていない仕事に挑戦し、プロフェッショナルな道をぜひ目指していただきたいと思います。

学位記の授与を祝し、希望に満ちて中央大学の学窓から新たな旅立ちをされる皆さんが、大志を抱き、心身ともに健やかで実り多き人生を歩まれ、これからの日本、世界を支える力として活躍されることを願います。そして、皆さんの母校、中央大学で学んだことに誇りと自信を持ち、これから出会うさまざまな課題に正面から向き合い、明るい未来を切り拓いていく推進役として成長されますことを祈念いたしまして、お祝いのご挨拶といたします。